

感謝、そして繋いでいく

横須賀市立長沢中学校 3年 丹羽 舞苺

私は今年の六月に腎生検のため入院しました。腎生検とは腎臓の組織の一部を採取し、顕微鏡で直接観察する検査です。

私の腎臓に初めて異変が見つかったのは小学五年生の尿検査でした。自分だけが受け取った再検査用の封筒がなんだかとても恥ずかしく、すぐにランドセルにしまった事をよく覚えています。二次検査でも要精密検査の結果が出て、母と病院へ行き、詳しく調べてもらいました。その後数年間は近くの病院に通院し経過観察が続きましたが、尿たんぱくと潜血の数値が高い状態が続いたため大学病院に入院して検査することになりました。

学校の尿検査で見つかるまで腎臓に病気があることにまったく気が付きませんでした。ある調査によると小児期に発症する腎炎の約七十～八十パーセントが、私のように学校検尿で無症状のうちに発見されているそうです。日本では一九七四年に世界で初めて学校検尿が開始されました。日本の小児末期腎不全の患者数の割合は世界で一番少なく、学校検尿が行われていないアメリカの半分以下というデータもあります。学校検尿で早期に発見された腎炎はむくみや食欲不振などの自覚症状が起こってから診断されたものに比べて病変が明らかに軽いことが分かっており、適切な生活管理や治療を行うことで将来腎不全になる子どもたちを減らすことができます。

尿検査を含め学校で受けられる健康診断は本来なら費用がかかるものであるにも関わらず、毎年当たり前のように無料で実施されています。それは未来ある子どもの健康のために税金が使われているからです。もしも個別での申込制や費用が掛かるとなったら、全員が受けるでしょうか。病気や健康についてまだ考える機会の少ない子どもたちが、経済的な理由に影響させることなく全員公平に受けられることのありがたみを、私は身をもって感じました。無料ということの意味をはきちがえることのないよう、税の役割や意義を理解し感謝の気持ちを忘れないようにしなければなりません。

私は小さい頃から看護師という職業になんとか憧れを抱いていました。通院や入院で看護師さんにやさしく接していただくうちに、単なる憧れは明確な目標に変わっていきました。まずは見つけてもらった病気をしっかり治し、将来は一人の社会人として一生懸命働き、税金をきちんと納められるようになりたいです。一人でも多くの子どもの健康を守るための手助けができるよう、様々な角度から恩返しをしていきたいと思っています。